

2018年度新専門医制度  
消化器内科

*Gastroenterology*

研修プログラム到達目標

患者の視点に立った全人的な医療の提供  
消化器病全般の知識と技能の幅広い習得  
質の高い医療の実践

プログラム責任者：柳瀬幹雄  
連絡先：myanase@hosp.ncgm.go.jp



# 診療科の概要

消化器内科 Gastroenterology

当科は入院・外来・救急で最も診療患者数の多い科のひとつで、消化器疾患を一通り学ぶことができる。

また上下部内視鏡検査・治療内視鏡(EMR/ESD)・吐下血に対する緊急内視鏡・胆膵内視鏡・腹部超音波関連の検査/治療などの高度な手技や、消化器癌に対する化学療法も最新の知見を取り入れながら数多く行っており、上級医の指導下に後期研修医・フェローが主導的な立場で診療にあたっている。

学会発表、全国的な臨床研究や臨床治験も数多く導入している。

# プログラムの概要

消化器内科 Gastroenterology

病棟診療を中心として多くの症例を経験し、幅広い臨床能力を養う。

また腹部超音波検査などの基本的な検査手技や、研修期間に応じて外来診療、超音波ガイド下穿刺、上部消化管内視鏡検査などの高度な検査手技を学ぶ。

これらの経験を通して検査・診断・治療と疾患の診療の流れを学び、主導的立場で計画・実行できるようにする。

希望に応じて化学療法などを重点的に行う研修や、学会発表・臨床研究など学術活動の支援も行う。

# ローテーション期間による到達目標



入院管理。

肝臓・胆道・膵臓・消化管、いずれの良悪性疾患も幅広く経験する。腹部超音波検査を習得し、悪性腫瘍の化学療法と緩和医療を学ぶ。

+



超音波ガイド下での処置(PTGBD・肝生検)。  
初診外来での患者診察。

+



上部内視鏡検査によるスクリーニング検査。



消化器内科

Gastroenterology

# ローテーション期間による到達目標 重点研修タイプ1年型

病棟・外来診療を通して各疾患の検査・診断・治療・フォローアップの流れを一通り経験し、消化器診療の基本的能力の習得を目指す。

検査手技に関しては腹部超音波検査、上部消化管内視鏡検査を独力で実行、診断できるようにし、習得度に応じて下部消化管内視鏡検査も実施する。

支部学会での症例発表を目標にする。

# ローテーション期間による到達目標

重点研修タイプ



2  
年  
型

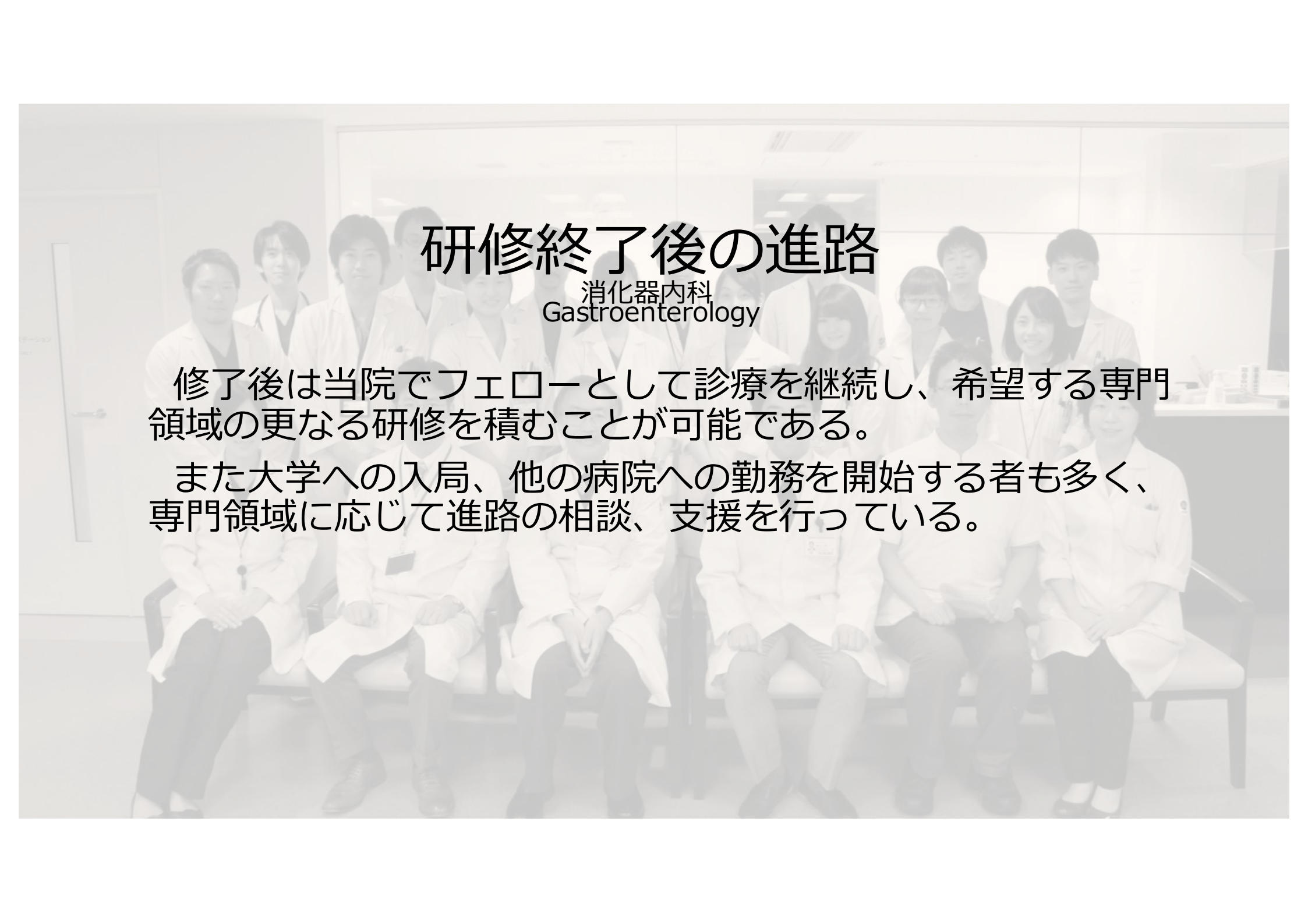
消化器内科 Gastroenterology

入院管理、外来診療を上級医の指導下にもありながらも主導的立場で計画、実行できるようにする。

下部消化管内視鏡検査を行えるようにする。また習得度、担当症例に応じてはEMR、ESDなどの治療内視鏡や胆膵内視鏡を経験することも目標とする。

これらの経験を通して、消化管・胆膵・肝臓・化学療法など自身の希望する専門領域を模索する。

臨床研究の計画、実行、総会での学会発表、論文作成なども可能であれば行う。



# 研修終了後の進路

消化器内科  
Gastroenterology

修了後は当院でフェローとして診療を継続し、希望する専門領域の更なる研修を積むことが可能である。

また大学への入局、他の病院への勤務を開始する者も多く、専門領域に応じて進路の相談、支援を行っている。